

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	01_北海道
市区町村名	01406古平町
自治体区分	

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位の	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
01406古平町	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	全国・全道と比較して、当町の児童の家庭学習時間が少ない。	「放課後ふるびら塾」を毎週木曜日の放課後(年間30回程度)に定期的に開催し、3名の学習支援員を配置することで、きめ細かな学習指導の充実を図る。また、学校の宿題だけでなく、算数ドリル・プリントを活用した自主学習を促すことで学習習慣の定着を図る。また、保護者や児童への周知・働きかけを行い、当該事業の参加児童数増加に努める。	令和6年度においては、学校の宿題を中心に学習を行っていたが、自ら進んで課題を見つけ学習する能力向上のため算数ドリルやプリントの活用を進める。	「放課後ふるびら塾」を実施することで児童の学習習慣の定着を図る。	アンケート調査により「放課後ふるびら塾に参加したことで学習習慣が「ついた」と実感する児童の割合を測る。	0	%	70	55	02 本年別の紙資料のアンケート調査の結果、「学習習慣が「ついた」と実感した児童の保護者の回答人数は20名(55%)であったことから、目標数値の達成に至らなかった。しかし、休日の家庭学習時間を確保する観点において、勉強していると回答した割合(「全くしない」と回答していない人の割合)が令和6年度と比較して大きく増加する結果(43%→90%)となったため、一定の成果が見られた。 03 学校の宿題のみに頼らず、進んで算数ドリルやプリント学習に取り組む児童が増えてきているため、改善が求められる。 04 今後は、学習が停滞している児童に対して支援員が指導に専念できるような環境体制を構築していく。	<a href="https://www.town.furubira.lg.jp/rearing/detail.php?id=40">https://www.town.furubira.lg.jp/rearing/detail.php?id=40</a>